

# NSG

GROUP





# NSG グループ

## 2019年3月期第2四半期決算報告

(2018年4月1日～ 2018年9月30日)

日本板硝子株式会社  
2018年11月1日

## 森 重樹

代表執行役社長兼CEO

## クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

## 諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

# 目次



1. 2019年3月期第2四半期 決算概要
2. 2019年3月期第2四半期 事業状況
3. A種種類株式償還
4. 100周年記念配当
5. 中期経営計画（MTP）フェーズ2進捗
6. まとめ

# 2019年3月期第2四半期 決算ハイライト



売上高	3,081億円 (前期比 +5%)	VA製品の販売増や好調な市場を反映し増収
無形資産償却前 営業利益	188億円 (前期比 +1%)	欧州自動車用ガラス、高機能ガラスを中心とした改善。コスト増による影響を吸収
個別開示項目	△12億円	フロート窯再稼働に伴う減損損失の戻入益及び欧州におけるリストラ費用を計上
持分法による投資利益	38億円	セブラセ社にて、売上税の返還による収益を計上
親会社所有者に 帰属する当期利益	93億円 (+94%)	金融費用の削減に加え、一過性の収益計上もあり、前期比大幅増益
フリー・キャッシュ・フロー	△92億円	運転資本の季節変動による影響

**営業利益は計画通りの進捗、当期利益は前期比大幅増益**

# 連結損益計算書



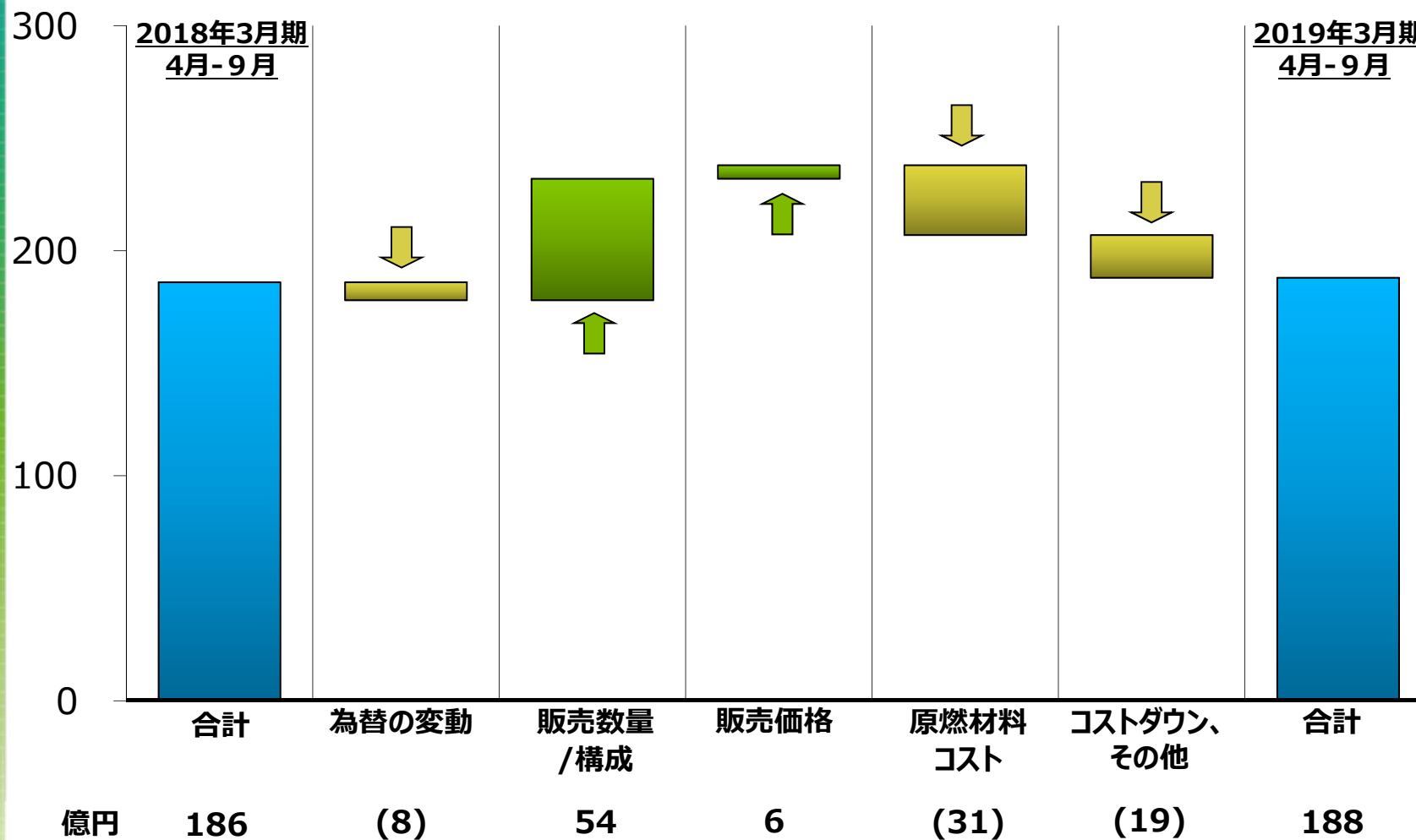
(億円)	2018年3月期 4月-9月期*1	2019年3月期 4月-9月期	2019年3月期 通期業績予想
売上高	2,940	3,081	6,300
無形資産償却前営業利益	186	188	430
償却費 *2	(10)	(10)	(20)
営業利益	176	178	410
個別開示項目	(18)	(12)	(70)
金融費用 (純額)	(76)	(67)	(130)
持分法による投資損益	10	38	30
税引前利益	92	137	240
当期利益	55	100	160
親会社の所有者に帰属する当期利益	48	93	140
EBITDA	315	320	

\*1：IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

\*2：ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

計画通りの進捗を受け、通期業績予想に変更なし

# 営業利益差異分析 (無形資産償却前)



投入コスト増加の影響を受けるも、数量/構成・価格が改善

# 主要財務指標 (KPI)



	<u>2017年9月末</u> <sup>*1</sup>	<u>2018年9月末</u>	<u>2018年3月末</u> <sup>*1</sup>
ネット借入 (億円)	3,296	3,201	3,065
ネット借入/EBITDA	5.2x	5.0x	4.8x
ネット借入/純資産比率	2.2x	2.2x	2.1x
自己資本比率	18.2%	17.8%	17.1%
	<u>2018年3月期</u> <u>4月-9月期</u> <sup>*1</sup>	<u>2019年3月期</u> <u>4月-9月期</u>	<u>2018年3月期</u> <sup>*1</sup>
営業利益率 <sup>*2</sup>	6.3%	6.1%	6.3%

\*1: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

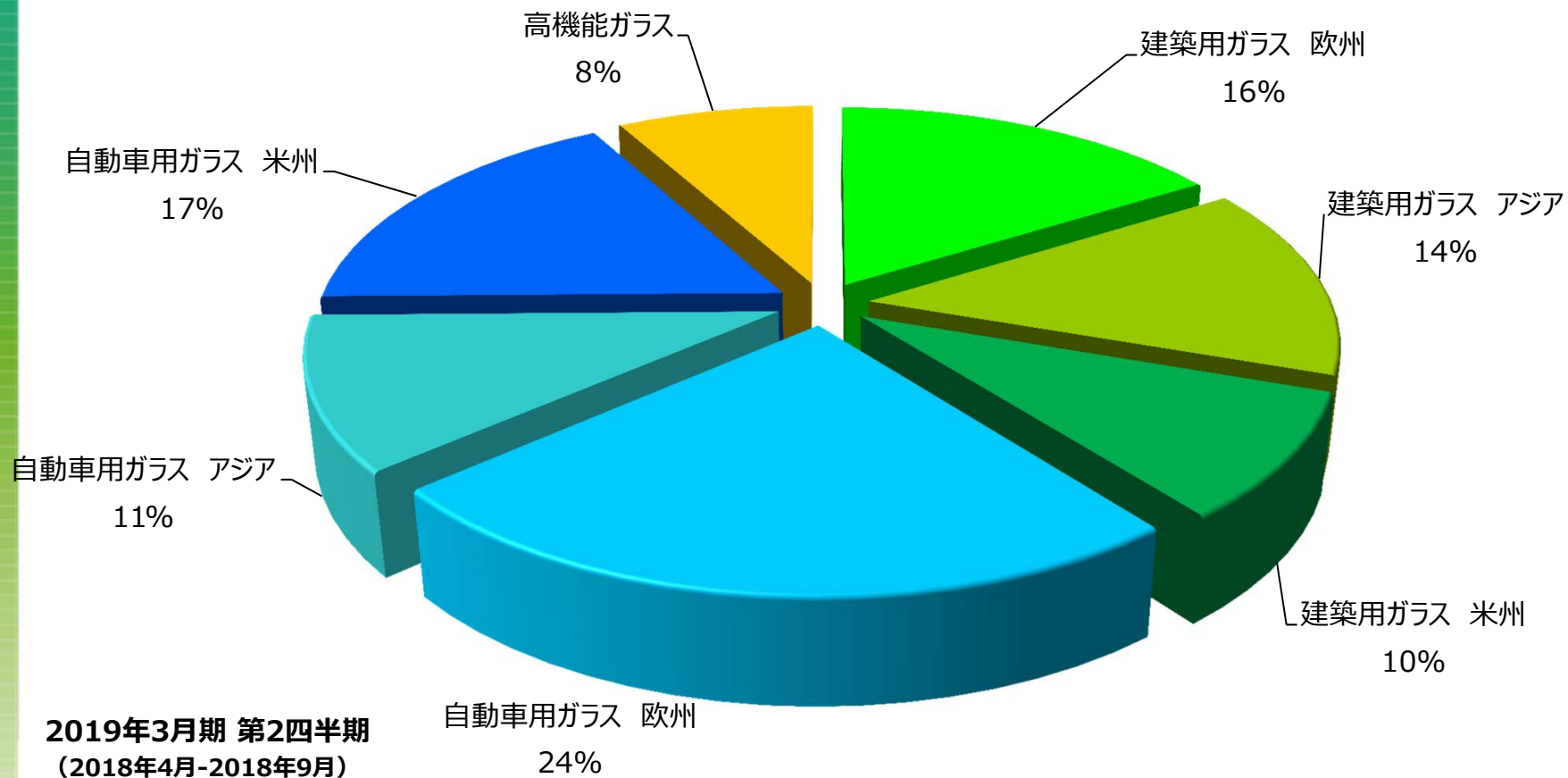
\*2: 無形資産償却前営業利益

**前年同期対比でネット借入削減、ネット借入/EBITDAの改善**



# 事業別売上高

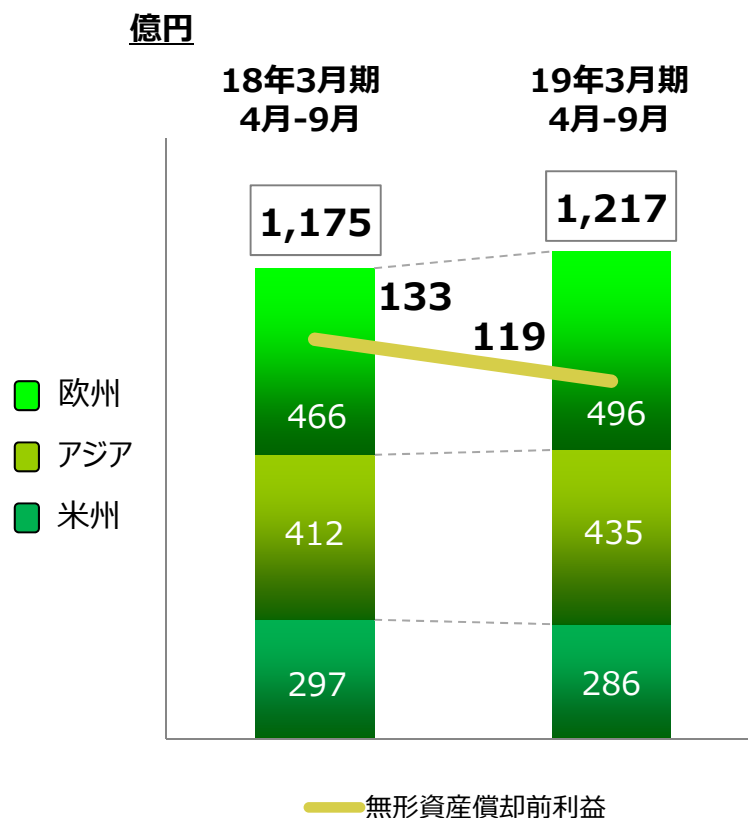
3,081億円



グローバルに事業展開

# 建築用ガラス事業

## 2018年3月期第2四半期との比較



### 欧州（増収・減益）

- 数量、価格とも改善し増収の一方、定修コストや投入コスト増加の影響を受け減益

### アジア（増収・増益）

- 日本は増収。原油価格上昇等によるコスト増の影響を吸収し、業績は横這い
- 東南アジアはソーラー用ガラスの出荷増により増収増益

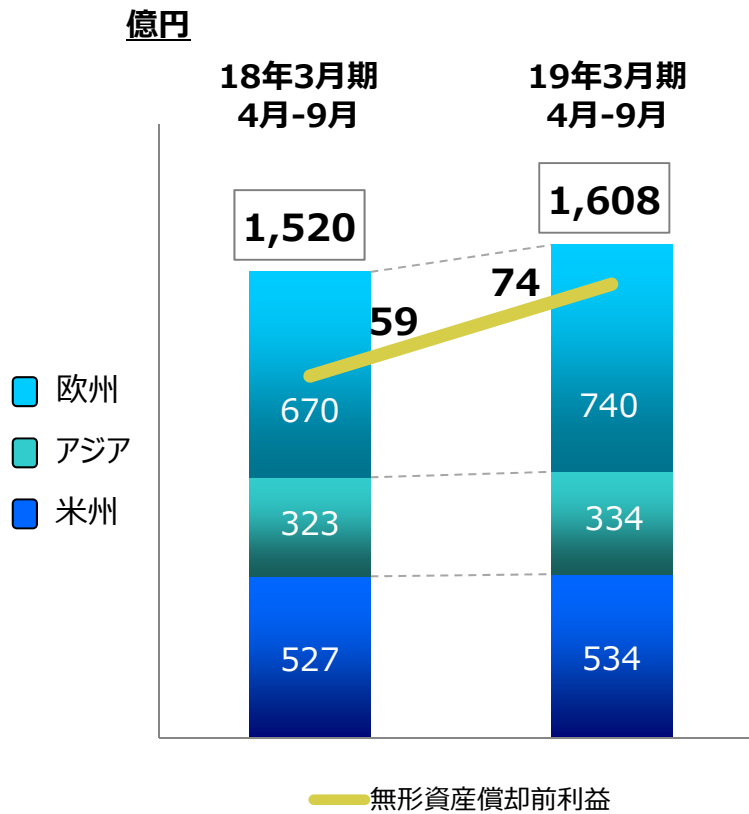
### 米州（減収・減益）

- 北米は好調な需要とオタワ工場再稼働の効果で増収の一方、一時的な素板製造コストの増加等の影響により減益
- 南米の市場は好調だが、インフレ会計の影響を受け、減収減益。

投入コスト増やアルゼンチンにおけるインフレ等の影響を受け減益

# 自動車用ガラス事業

## 2018年3月期第2四半期との比較



### 欧州（増収・増益）

- 堅調な市況に加え、当社VA製品出荷が新車用、補修用ともに好調で増収増益

### アジア（増収・横這い）

- 日本は自然災害の影響を受けるも出荷、生産ともに安定的に推移
- 東南アジアの売上は改善

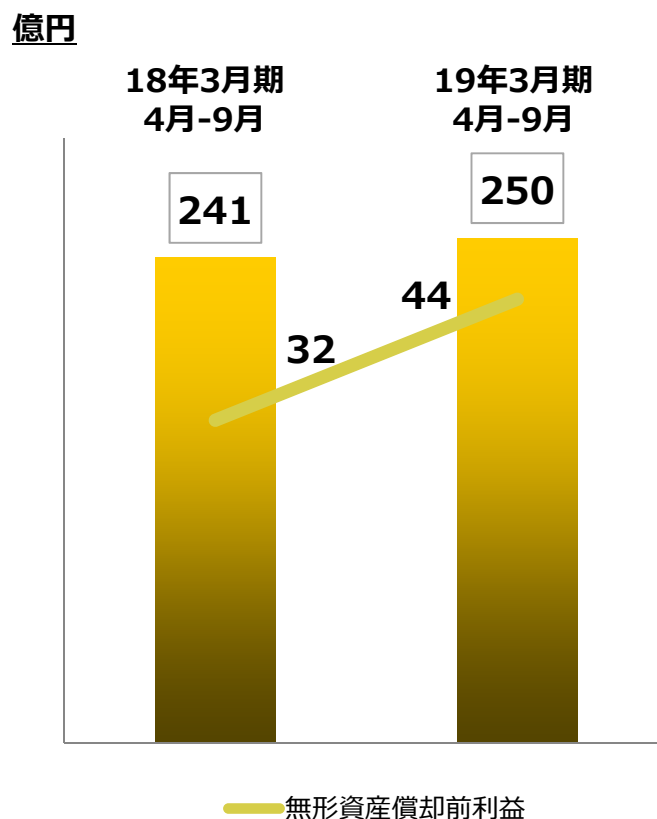
### 米州（増収・増益）

- 北米は堅調な出荷により増収増益
- 南米は、ブラジルにおける数量回復により業績改善

ほぼ全地域で増収。欧州は販売増とVA比率上昇により増益

# 高機能ガラス事業

## 2018年3月期第2四半期との比較



### 高機能ガラス事業 (増収・増益)

- ディスプレイは売上増とコスト改善により損益改善
- プリンター用レンズの需要は底堅く推移
- グラスコードは自動車市況を反映し堅調
- メタシャインは自動車用塗料、化粧品向けの販売が増加
- バッテリーセパレーターの市場も好調

各製品とも市場は堅調

# A種種類株式償還開始（取得および消却）



**当期利益の安定的改善を踏まえ、A種種類株式の一部償還開始を決定**

取得・消却する株式数：5,000株

取得価額：58億円（プレミアム7.5億円および日割優先配当金0.5億円含む）

取得・消却日：2018年12月7日（予定）

未取得株式数：35,000株（発行価額：350億円）

償還方針：

- 当期利益、優先・普通配当を勘案し、財務安定性を維持しつつ早期に償還を行う方針
- 償還により優先配当および償還プレミアムを低減

# 100周年記念配当



計画通りの業績進捗を踏まえ、予定通り100周年記念配当10円/株を決定

	2019年3月期 (中間)	2019年3月期 (期末予想)	2019年3月期 (合計予想)
普通配当 (円/株)	-	20	20
周年記念配当 (円/株)	10	-	10
普通株式配当合計	10	20	30
配当総額 (億円)	20	28	48
(普通配当額)	(9)	(18)	(27)
(優先配当額)	(11)	(10)	(21)
連結配当性向 (普通株式)			23%

## (参考) 配当方針

当社グループでは、持続可能な事業の業績をベースにして、安定的に配当を実施することを利益配分の基本方針としている

将来A種種類株式全てを償還した後もこの基本方針を維持しつつ、連結配当性向30%を目安として継続的な配当の実施に努める

# まとめ

## 第2四半期決算

- 前年同期比で増収増益。概ね当初業績予想に沿った着地
- 欧州を中心にVA製品の伸長。市場環境は全体的には堅調を維持
- 一方で重油コスト上昇の影響あり
- 金融費用の削減に加え、持分利益の計上もあり最終利益も大幅増益
- 18年9月期 100周年記念配当実施
- 当期利益の安定的改善を踏まえ、A種種類株式償還を開始

## 今期の見通し

- 第2四半期実績はほぼ計画通りであり、通期業績予想に変更なし
- 一方で今後ともコスト上昇影響は注視
- 営業利益6期連続増益に向けて着実に前進

# 中期経営計画（MTP）フェーズ2



**2019年3月期方針**

**Shift to “VA + Growth”**





# Shift to “VA + Growth”

## 成長ステージごとの取り組み

### 基盤事業

#### 事業収益力の強化

- VA化による収益性改善
- 生産性改善による生産コスト削減
- 不採算・低採算事業の見直し

### 成長事業

#### トップラインの拡大

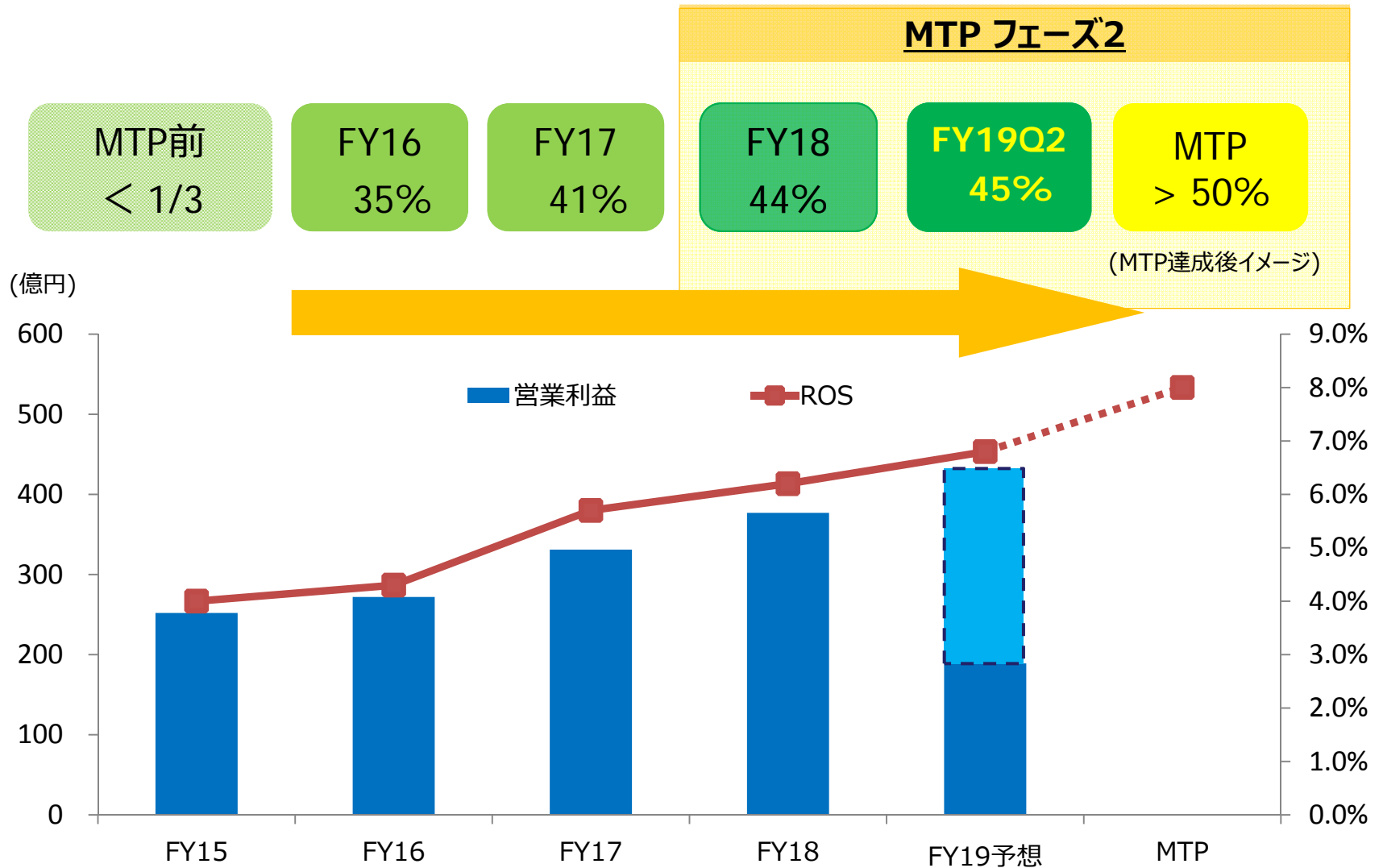
- 新興市場（南米）で増設投資
- 薄膜太陽電池パネル用ガラスの増産投資
- オンラインコーティング製品の用途拡大
- 高機能ガラス新製品群の市場投入

### 新規事業

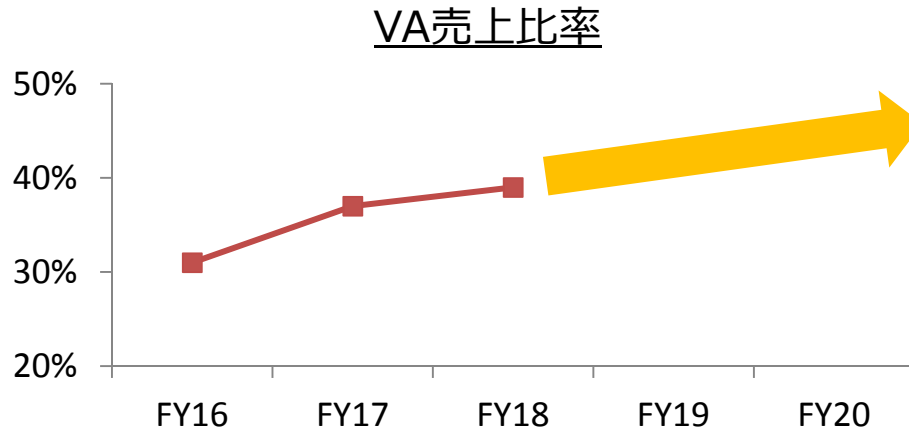
#### 新規事業の育成・新しい顧客価値創造

- ビジネス・イノベーション・センターの始動

VA売上比率は着実に上昇 営業利益改善に寄与



## VA化の進展が事業業績改善に貢献



### VA 製品事例



人気のFord Fiestaで  
オプションとして熱線入り  
ガラスを選択可能  
(年間売上予想: 30万台)

マセラティ (Maserati) など  
高級車のフロントガラスや  
産業車両用のELディスプレイも  
VA化進展に貢献



### 外部環境

欧州をはじめとする先進国の  
自動車市場は安定。  
しかし大きく伸びない

### 当社アクション

- ① 強みを生かせるVA製品  
受注増加に注力  
→高精度フロントガラス  
軽量化、アンテナ等
- ② 低稼働ラインの整理

徐々にVA売上比率向上

事業業績改善へ

## 自動車先進技術に対応したVA製品が拡大中



超薄板ガラスglanova®  
自動車用途開発推進



★ 防曇機能付フロントガラス  
シエンタに採用

(写真提供：トヨタ自動車株式会社)



★ 遮音・赤外線カットガラスと  
メタシャイン®プリントガラス  
が鉄道車両に採用  
(西武鉄道)



2019 GMC Sierra Denali  
Photos courtesy of General Motors

★ GM T1XXにHUD対応WS採用  
大型ピックアップトラックとして初



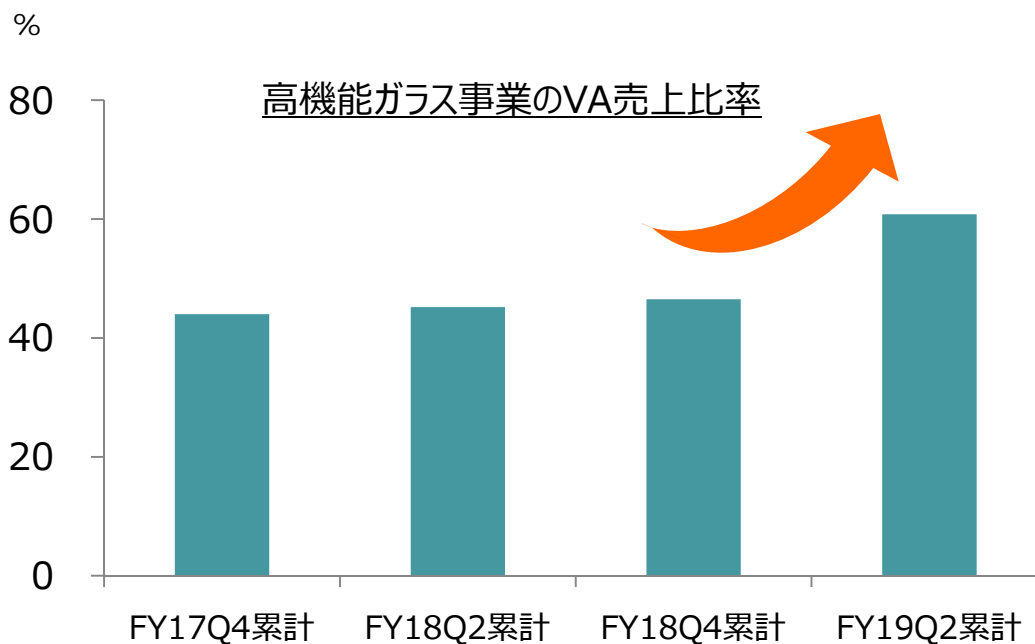
オンラインLow-Eガラスの  
自動車用展開推進

★ : 今年度リリース案件

## 高機能ガラスにおいてもVA売上半率が改善

### 貢献要因

- ディスプレイ事業の改善
- グラスコードが欧州、中国で好調  
(高強度、油中ベルト等)
- メタシャイン®が自動車向け塗料用等に用途拡大



2018年11月1日 | 2019年3月期第2四半期決算報告



エンジンタイミングベルト用グラスコード



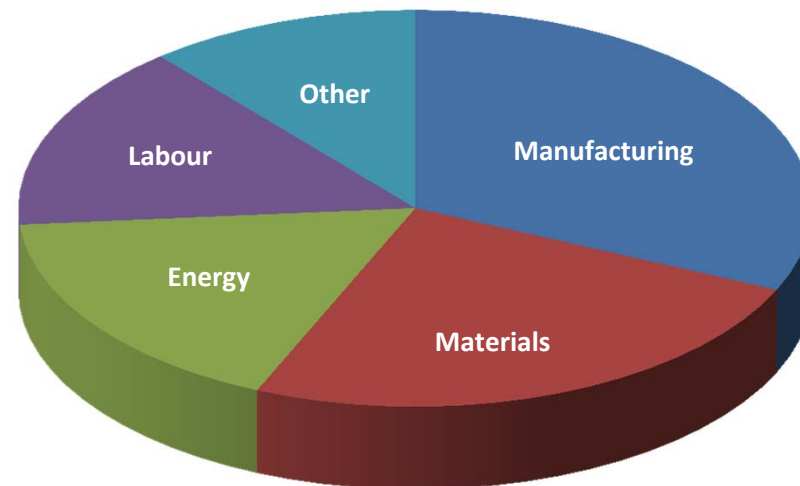
光輝性材料 メタシャイン®

## 継続的な生産性改善とコスト削減活動により製造コストを削減

製造コスト削減活動  
(Operational Cost Saving Programs)

- ボトムアップ型のグローバルコストダウンプログラム
- 製造費用中心に年間2,000テーマ以上を実行
- 欧州建築用、自動車用ガラス事業を中心に設備統廃合等、トップダウン型のコスト削減策と共にコストベースを低減

FY19 区分別OCS 見通し





## アルゼンチンでフロートガラス工場を増設

- グループの戦略的強みを生かし、成長する南米市場の機会をとらえる
- 当社の子会社であるVASA社\*による投資(当社持分51%)
- 2020年前半に稼働予定

## 投資概要

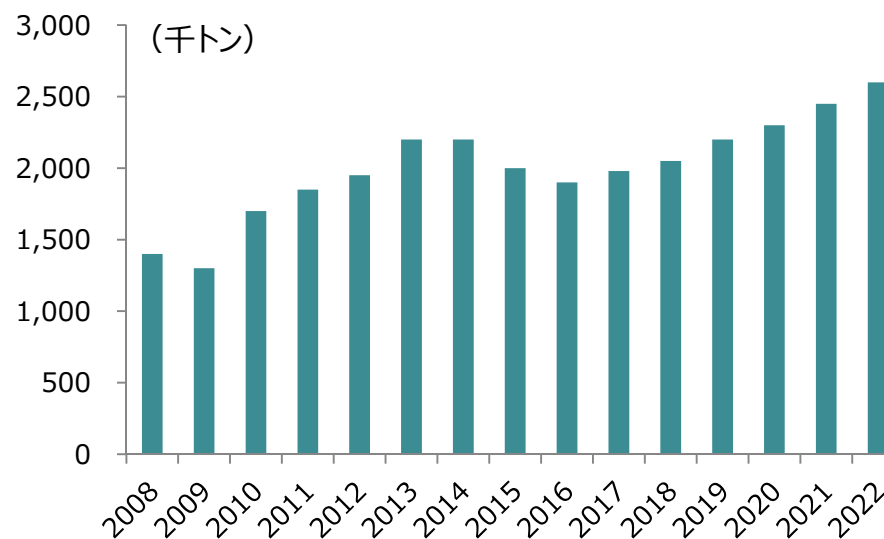
設備： VASA社第2フロートライン  
(生産能力：約900t/日)

投資：約200百万米ドル

場所：Cardales  
(ブエノスアイレス近郊)

市場：アルゼンチンおよび周辺諸国

## 今後とも成長が見込まれる南米ガラス需要



(当社推定)

\* VASA概要は次のスライド参照

## 南米における確実な実績と豊富な経験に基づき投資を決定

- 国内・周辺国で確立した顧客基盤と確固たる市場ポジション
- 過去の経済変動の中でも安定した業績を達成してきた経営力
- VASA社の資本形態によりリスク低減
- 技術含め、グループによる全面バックアップ

## \* VASA社(Vidrieria Argentina SA) 概要

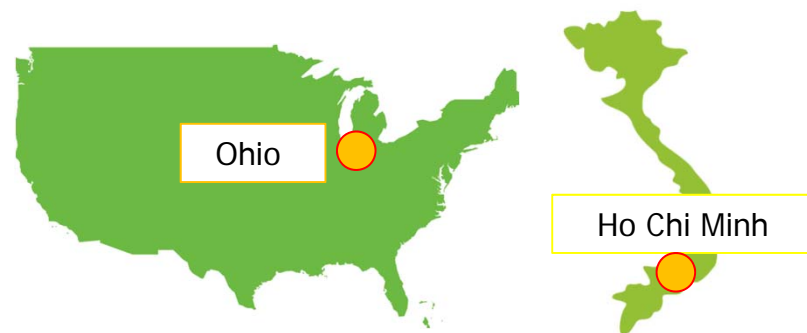
- 1938年設立、80年の歴史
- 当社持分：51%（サンゴバン社49%）
- 拠点：Llavallolに本社、第1フロート  
Cardalesに第2フロート（予定）  
（いずれもブエノスアイレス近郊）





## 設備投資は、計画通り進捗

- アメリカのフロートライン新設予定地としてオハイオ州トロイ地区を選定(\*)
- ベトナム休止窯の再稼働も予定通り



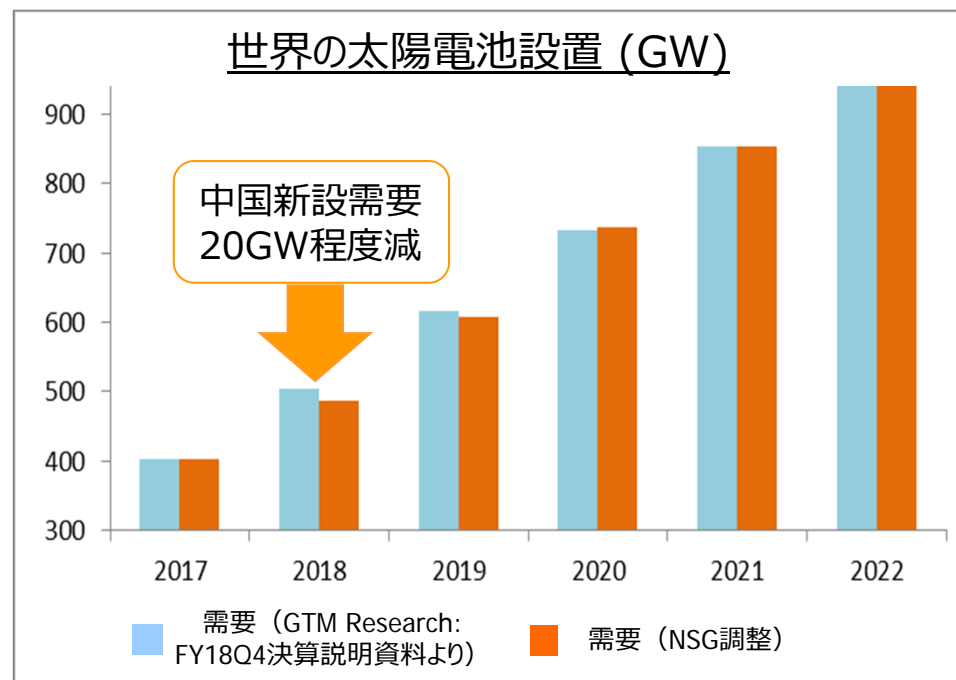
## 需要は堅調

### FY19Q2 ソーラー売上増加

対Q1比 +10%

対前H1比 +30%

- FY18の一時的な需要減から順調に回復中
- 顧客のライン切り替えが進展
- 中国ソーラー政策変更により2018/19年の世界需要に影響あるも、当社顧客需要への影響は軽微と想定

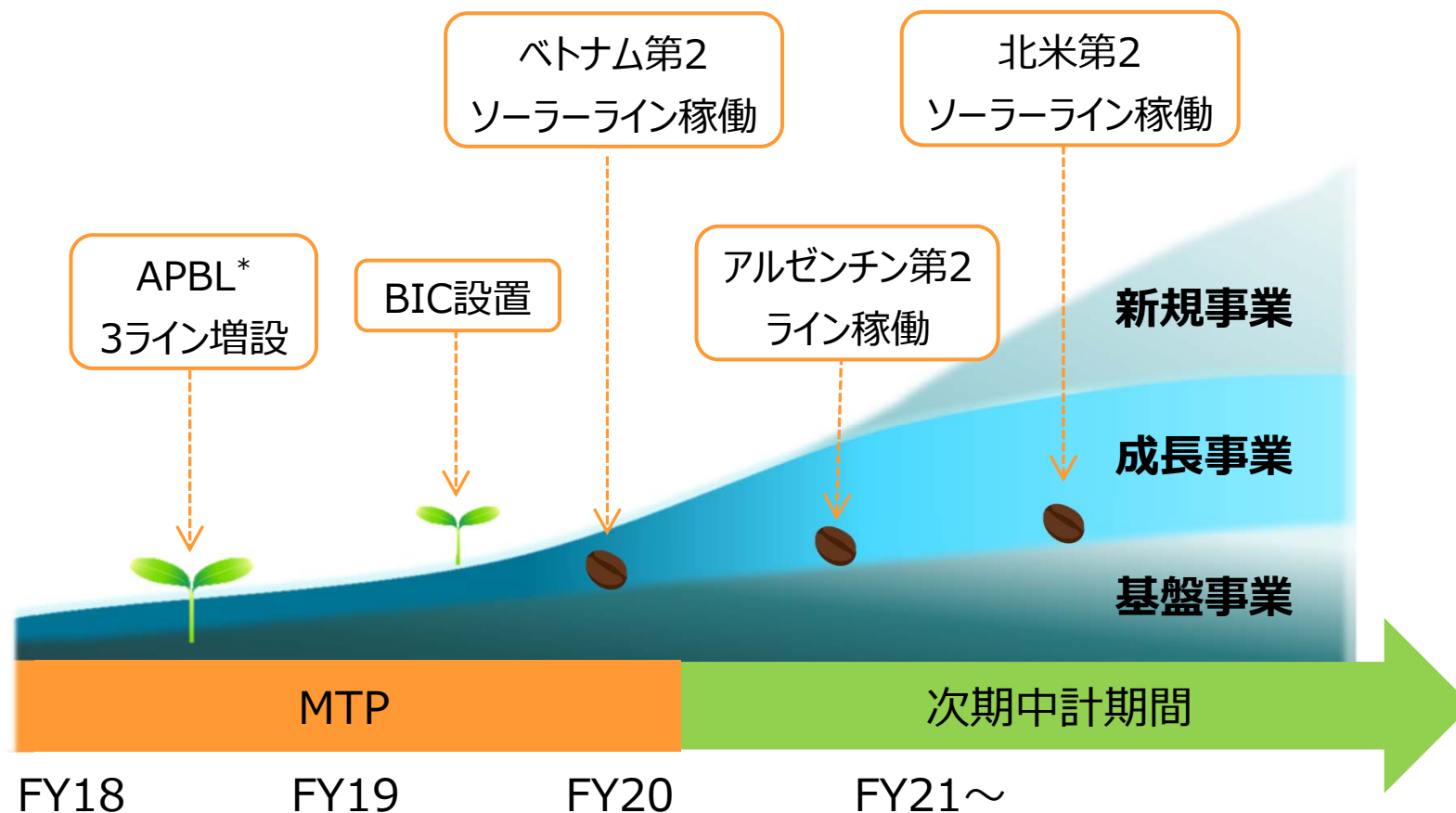


(\*) 地元政府の補助金承認後最終決定予定

# “VA+Growth” – 成長への種まき

## 強みのある分野・成長地域・新事業において重点的にアクション

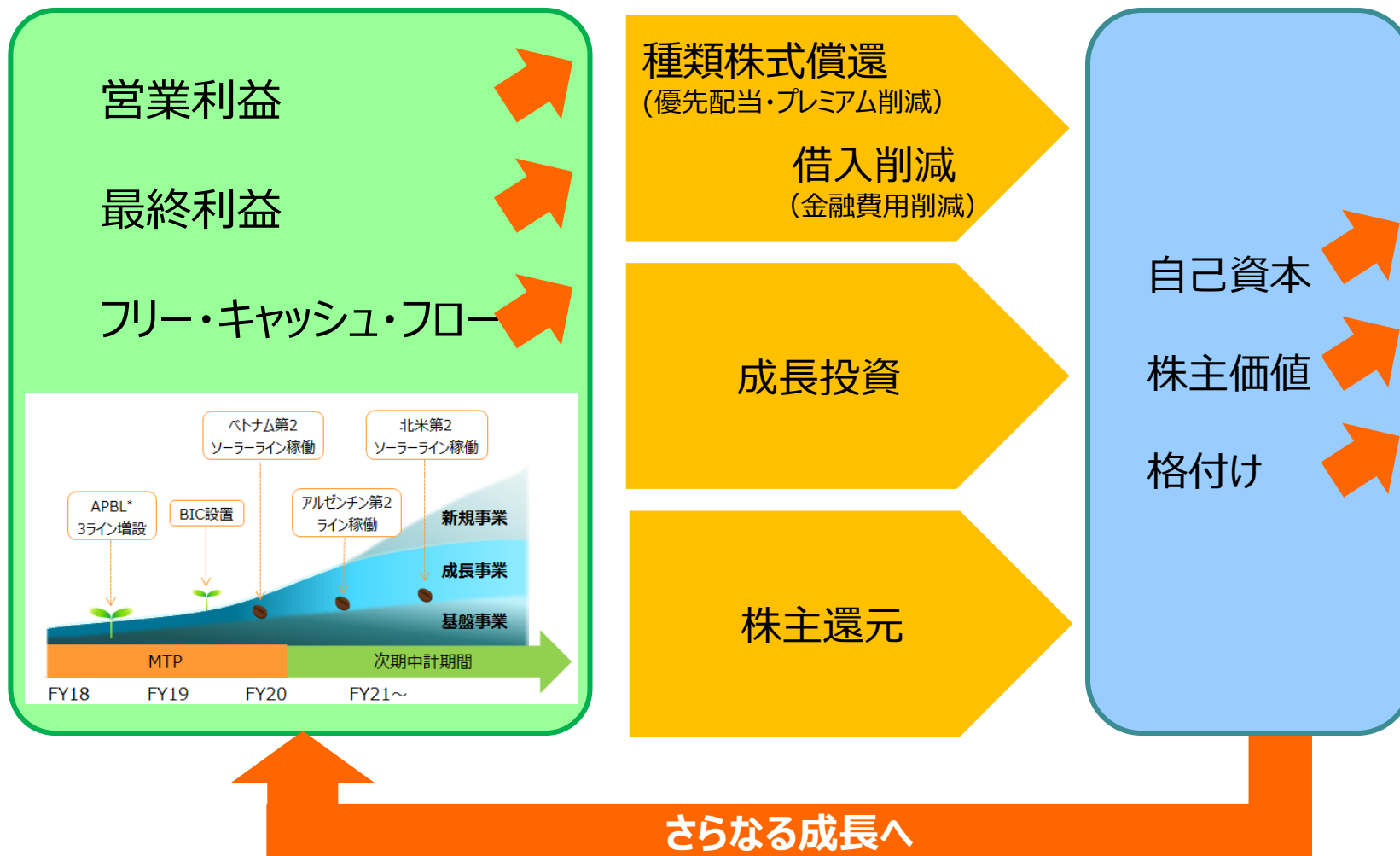
(自動車用フロントガラス、オンラインコーティング、南米、高機能ガラス製品)



APBL : Advanced Press Bending for Laminated glass - フロントガラス用高精度プレス工法

# “VA+Growth” – 財務サステナビリティへ

中長期的な財務サステナビリティ確立の方針は不変  
増分利益はバランスを考慮し財務改善・成長投資・株主還元へ



# 新ビジョン（Our Vision） – 次の100年へ



## 創立100周年を迎えるに当たり、新たな経営指針を策定

- ガラスメーカーから、ガラス+aの価値創造企業へ
- 個々に強さを有する集団が、その多様性を強みとして、共通の目的に挑戦する



当社は2018年11月22日を  
もちまして創立100周年を迎えます

# まとめ

## 第2四半期決算

- 前年同期比で増収増益。概ね当初業績予想に沿った着地。
- 欧州を中心にVA製品の伸長。市場環境は全体的には堅調を維持。
- 一方で重油コスト上昇の影響あり
- 金融費用の削減に加え、持分利益の計上もあり最終利益も大幅増益
- 18年9月期 100周年記念配当実施
- 当期利益の安定的改善を踏まえ、A種種類株式償還を開始

## 今期の見通し

- 第2四半期実績はほぼ計画通りであり、通期業績予想に変更なし
- 一方で今後ともコスト上昇影響は注視
- 営業利益6期連続増益に向けて着実に前進

## 中期経営計画（MTP）フェーズ2 進捗

- 「Shift to “VA + Growth”」を方針にアクション加速
- 成長する南米での新窯増設により、確固たる市場ポジションを強化
- 100周年を機に新ビジョン（Our Vision）を制定

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社

## 補足資料

- 決算補足資料
  - 事業部門別・地域別売上高
  - 事業部門別・地域別償却前営業利益
  - 連結貸借対照表
  - 連結キャッシュ・フロー
  - 個別開示項目
  - 為替レート
  - アルゼンチンにおける超インフレ会計
- MTP補足資料
  - MTPフェーズ2 概要
  - 主要KPIの進捗状況
  - 2018年4月～10月 主なニュースリリース

# 事業部門別・地域別売上高

## 2018年3月期第2四半期との比較

<u>(億円)</u>	<u>2018年3月期</u> <u>4月-9月期</u> <sup>*</sup>	<u>2019年3月期</u> <u>4月-9月期</u>	<u>増減</u>
<b>建築用ガラス</b>	<b>1,175</b>	<b>1,217</b>	<b>42</b>
欧州	466	496	30
アジア	412	435	23
米州	297	286	(11)
<b>自動車用ガラス</b>	<b>1,520</b>	<b>1,608</b>	<b>88</b>
欧州	670	740	70
アジア	323	334	11
米州	527	534	7
<b>高機能ガラス</b>	<b>241</b>	<b>250</b>	<b>9</b>
欧州	37	41	4
アジア	197	201	4
米州	7	8	1
<b>その他</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>2</b>
<b>合計</b>	<b>2,940</b>	<b>3,081</b>	<b>141</b>

\*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

IFRS第15号適用前：2,970億円（調整額：△30億円）



# 事業部門別・地域別償却前営業利益 <sup>\*1</sup>

## 2018年3月期第2四半期との比較



<u>(億円)</u>	<u>2018年3月期</u> <u>4月-9月期</u> <sup>*2</sup>	<u>2019年3月期</u> <u>4月-9月期</u>	<u>増減</u>
<b>事業別</b>			
建築用ガラス	133	119	(14)
自動車用ガラス	59	74	15
高機能ガラス	32	44	12
その他	(38)	(49)	(11)
合計	186	188	2
<b>地域別</b>			
欧州	92	95	3
アジア	75	90	15
米州	57	52	(5)
その他	(38)	(49)	(11)
合計	186	188	2

\*1: 無形資産償却前営業利益

\*2: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。  
IFRS第15号適用前：187億円（調整額：△1億円）

# 連結貸借対照表

(億円)	2018年3月末*	2018年9月末	増減
<b>資産</b>	<b>7,886</b>	<b>7,816</b>	<b>(70)</b>
<b>非流動資産</b>	<b>5,308</b>	<b>5,326</b>	<b>18</b>
のれん・無形資産	1,697	1,696	(1)
有形固定資産	2,441	2,448	7
その他	1,170	1,182	12
<b>流動資産</b>	<b>2,578</b>	<b>2,490</b>	<b>(88)</b>
現金及び現金同等物	648	530	(118)
その他	1,930	1,960	30
<b>負債</b>	<b>6,449</b>	<b>6,341</b>	<b>(108)</b>
<b>流動負債</b>	<b>2,550</b>	<b>1,928</b>	<b>(622)</b>
金融負債	976	501	(475)
その他	1,574	1,427	(147)
<b>非流動負債</b>	<b>3,899</b>	<b>4,413</b>	<b>514</b>
金融負債	2,751	3,272	521
その他	1,148	1,141	(7)
<b>資本</b>	<b>1,437</b>	<b>1,475</b>	<b>38</b>
親会社の所有に帰属する持分	1,352	1,389	37
非支配持分	85	86	1
<b>負債及び資本</b>	<b>7,886</b>	<b>7,816</b>	<b>(70)</b>

\*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

[資産] IFRS第15号適用前: 7,919億円 (調整額: △33億円)

[資本] IFRS第15号適用前: 1,428億円 (調整額: +9億円)

# 連結キャッシュ・フロー



(億円)

当期利益	
減価償却費	
減損損失(戻入)	
有形固定資産等売却益	
持分法による投資利益	
法人所得税支払額	
その他	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー (運転資本の増減考慮前)</b>	
運転資本の増加	
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得	
資産売却収入	
その他	
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	

<u>2018年3月期</u> <u>4月-9月期</u> *	<u>2019年3月期</u> <u>4月-9月期</u>
55	100
144	142
3	(2)
(24)	-
(10)	(38)
(28)	(34)
(9)	-
<b>131</b>	<b>168</b>
(78)	(137)
<b>53</b>	<b>31</b>
(134)	(117)
15	1
(5)	(7)
<b>(124)</b>	<b>(123)</b>
<b>(71)</b>	<b>(92)</b>

\*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。  
(フリー・キャッシュ・フローには影響はありません)

# 個別開示項目



(億円)	<u>2018年3月期</u> <u>4月-9月期</u>	<u>2019年3月期</u> <u>4月-9月期</u>
有形固定資産等の減損損失戻入益	-	<b>27</b>
ジョイント・ベンチャーに対する投資の売却益	15	-
保険金の受取による利益	10	-
有形固定資産等の減損損失	(2)	<b>(25)</b>
リストラクチャリング費用	(22)	<b>(13)</b>
設備休止に係る費用	(21)	-
その他	2	<b>(1)</b>
	<b>(18)</b>	<b>(12)</b>

# 為替レート

	<u>2018年3月期</u> <u>4月-9月</u>	<u>2018年3月期</u>	<u>2019年3月期</u> <u>4月-9月期</u>
期中平均為替レート：			
円/英ポンド	144	147	147
円/米ドル	112	111	111
円/ユーロ	126	130	130
円/アルゼンチン・ペソ	6.74	6.30	-
期末為替レート：			
円/英ポンド	151	150	148
円/米ドル	113	106	113
円/ユーロ	132	132	132
円/アルゼンチン・ペソ	6.42	5.30	2.84

# アルゼンチンにおける超インフレ会計

2019年3月期第2四半期より、IAS第29号に定められる要件に基づき、アルゼンチンの子会社の財務諸表に対して実施した超インフレ会計の主な手続き

- 有形固定資産とそれに係る繰延税金の残高について、資産取得日を基準にしたインフレ係数を適用して修正
- 損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書について、2018年4月1日からインフレ係数を適用して修正
- 貨幣性項目については、インフレによる価値減少（機会損失費用）を金融費用として計上
- 損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書の連結に際し、期末日レートをを用いて日本円に換算

超インフレ会計の適用による連結財務諸表への影響（2019年3月期第2四半期、単位：億円）

## 連結損益計算書

売上高	(19)
営業利益	(5)
税引後利益	(13)
非支配者持分に帰属する利益	(5)
親会社の所有者に帰属する利益	(8)

## 連結貸借対照表

有形固定資産	34
繰延税金負債	(10)
親会社の所有者に帰属する持分	14
非支配持分	10
資本合計	24

# 中期経営計画(MTP)フェーズ2

(2018年3月期～2020年3月期)



## フェーズ2 施策

### 成長施策

- VA No.1 戦略の推進
- 成長ドライバーの確立
- ビジネスカルチャーイノベーション
- グローバル経営強化

### 財務施策

- 自己資本充実
- ネット借入削減
- 種類株式発行

## MTP目標

- 財務サステナビリティ確立
- VAガラスカンパニーへの変革

## 財務目標

ネット借入/EBITDA: 3倍

ROS: 8%以上

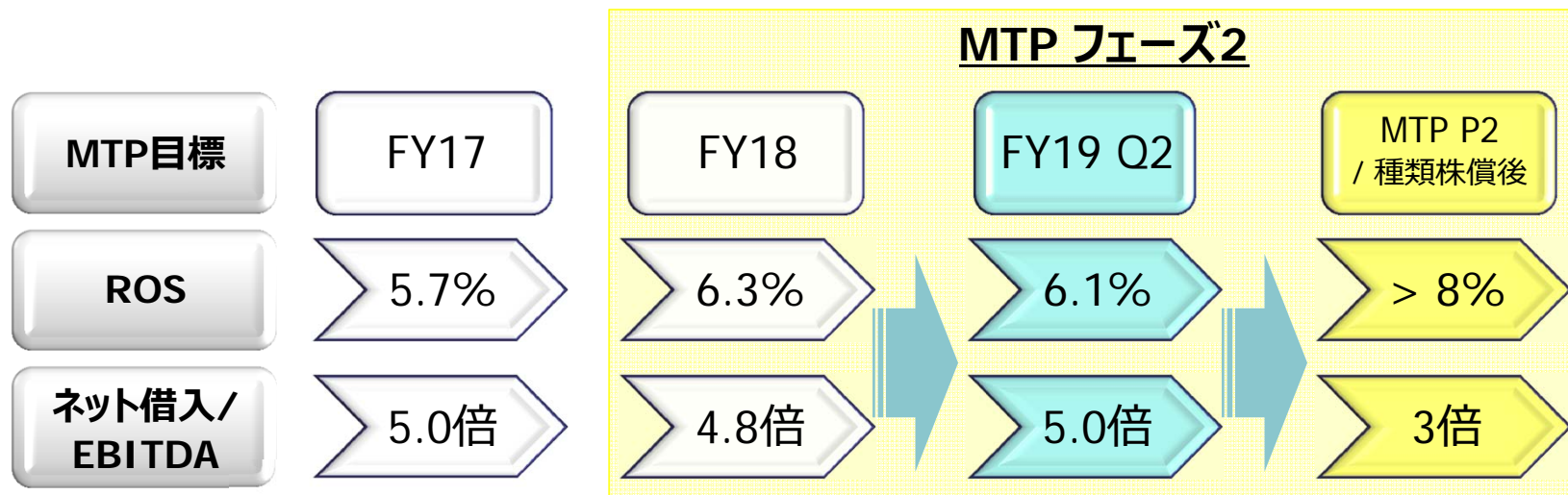
【MTP目標達成後イメージ】  
(種類株式金銭償還後)

- 自己資本比率: 20%
- ROE: 10%
- VA売上比率: > 50%
- 営業利益: 500億～600億

ROS: 無形資産償却前営業利益率

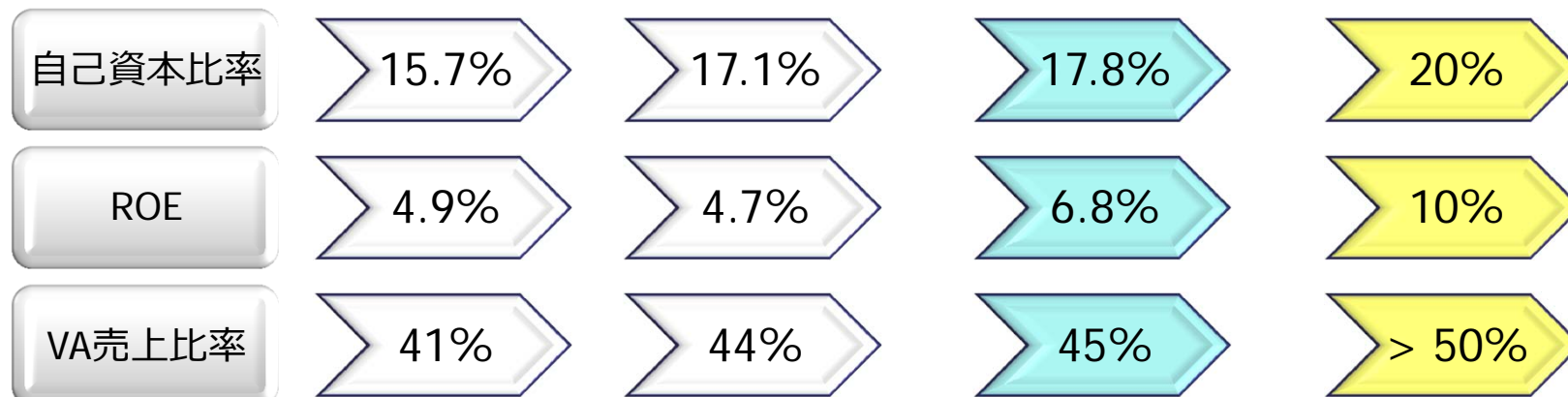
# MTPフェーズ2：主要KPIの進捗状況

主要KPIは計画通りの進捗



【参考】

(達成イメージ)





# 2018年4月～10月 主なニュースリリース



発表日

- 4月2日 100周年記念プログラムを開始 - 特設ウェブサイト、公式Facebookページを公開 -
- 4月16日 小田急ロマンスカー・GSE（70000形）に当社ガラスが採用
- 4月27日 GMサプライヤー・オブ・ザ・イヤーを受賞
- 5月11日 太陽光パネル用ガラスの製造設備を増設
- 6月18日 「ビジネス・イノベーション・センター」を新設
- 6月21日 モバイル リアルタイムPCR装置を「BIO Tech 2018」に出展
- 7月30日 NSGグループ初の統合報告書を発行
- 8月21日 ヘッド・アップ・ディスプレイ対応ガラスがゼネラルモーターズの新型ピックアップトラックに採用
- 9月13日 防曇機能付ガラスがトヨタ新型シエンタ（Sienta）に採用
- 10月1日 日本政策投資銀行の環境格付融資で最高の格付取得
- 10月9日 アルゼンチンでフロートガラス工場を増設
- 10月22日 太陽電池パネル用ガラスの米国工場増設地を決定
- 10月30日 西武鉄道新型特急車両Laview（ラビュー）の客席窓に新デザインの高機能ガラスが採用



※ 写真提供：小田急電鉄株式会社

# NSG

GROUP

